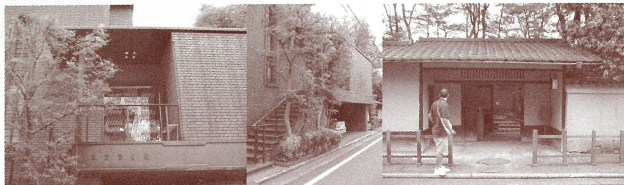


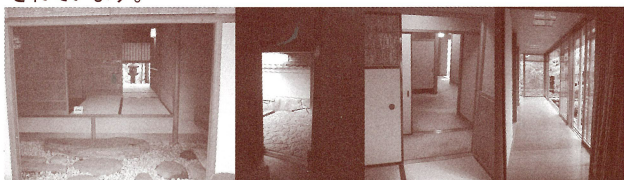


■四君子苑：北村邸 京都市上京区河原町今出川下一筋目東入梶井町

実業家であり茶人でもあった北村謹次郎氏の邸宅。現在北村美術館として開館されていますが、庭園を含む居宅部分については非公開。春と秋に特別公開をしておられます。



京都御苑と鴨川に挟まれた、「山紫水明」の地、「河原町今出川南一筋東入ル」一大通りから外れた閑静な場所にあり、数寄屋の名工、北村捨次郎の手により昭和19年に建てられ、昭和38年に近代数寄屋建築の創始者とされる吉田五十八の手により増築されています。



門をくぐると静けさはさらに深まり、懐のある寄付を横切って、ほの暗く抑制のきいた玄関から入り、つづらおれる廊下から大広間へとぬけると、庭一面に解放された高天井の広縁へと出ます。



さらに天井が高い居間の角に柱は無く、庭にとけ込みつつ、数寄屋と対峙しています。庭を見巡る回廊と待合を抜けて茶室へ、手前の仲立は琵琶湖に浮かぶ船に見立てられています。



「看大」の銘がある広間は大字の送り火が見え、簾障子によって虫かごにも。趣向に満ちた建物に取り囲まれた庭には見巧者、数寄者であった氏の収集した庭木、石造物が処得たりと配され、潤沢な流れに洗われながら時を重ねていました。

◇後記◇遊び心に満ちた庭、現在も守り使われている美例です。春には枝垂桜の頃に公開とのこと、行かれてみては？